

卒業生インタビュー

(作業療法学科夜間部 8期卒業生)



加藤あさ美さん (左)

- ◆出身校：開成高等学校
- ◆重症児デイサービス ソルキッズ勤務

和佐田莉奈さん (右)

- ◆出身校：札幌北高等学校定時制
- ◆札幌道都病院勤務

作業療法士を目指したきっかけは何ですか？

和佐田さん (以下 和)：私は高校 (定時制) の時から介護の仕事をはじめました。介護の現場では、能力的にできるのに介助を受けている方も多く、どうにかしたい気持ちをもっていました。高校の先生から作業療法という仕事があることを紹介されて調べていくうちに、日常生活に必要な食事や入浴などのリハビリをする仕事であることを知り、私も作業療法士を目指そうと思いました。

加藤さん (以下 加)：音響の専門学校を卒業後、いろいろな仕事をしていました。転職を考えるとときに職業紹介の本を眺めていたら作業療法士が目にとまり、そこに書かれていた遊びの中で伸ばしていく子どものリハビリに興味を持ち、私もやりたいと思うようになりました。また、心理学や精神医学の勉強もあり精神科で働くことができることも魅力でした。

作業療法学科夜間部に入学してみてもいかがでしたか？

和：夜間部は定時制高校と同じように自分で使える自由な時間が多く、また、年上の同級生との年齢差もあまり感じませんでした。勉強は想像していたよりもかなり細かく幅広く知る必要があったので大変でした。高校生の弟にノートのとり方を教えてもらったので、同級生に声をかけて一緒に勉強したりするようにしていました。

加：私は思ったより男性が多いという印象でした。勉強については、中学や高校の理科で人体について習っていたはずなのにぜんぜん覚えていなくて驚きました。高校生まではあまり勉強で困ったことがなかったので、当時と同じように一人で勉強をしていたら思ったより点数が取れませんでした (笑)。2年生になってからやっとみんなで勉強するやり方がわかってきました。

今の仕事について教えてください。

和：今は主に心不全や肺炎、糖尿病、廃用症候群の方のリハビリをしています。長期療養の方も多く、なかなか機能改善が難しいこともあります。少しでもできそうなことや生活を楽しむ効率のよい動作を身につけられるように指導・支援することを心がけています。学校であまり習わない分野だったので、時間を見つけてできるだけいろいろな勉強会に参加するようにしています。

加：私の職場では、教科書にも載っていないような聞いたことのない疾患の子がとても多く、情報も少ないので、ひとりひとりの状態をしっかりと評価して対応するようにしています。まずは姿勢や呼吸の状態をみて苦しくなく過ごせるように気をつけています。多職種と一緒に働く環境の中、それぞれの子がしっかりと自分の力を発揮できるように作業療法の視点から関わっています。また最近では障がいに合わせたスイッチの工夫や視線入力装置の導入も始めています。

これから作業療法士を目指す人にひとことお願いします。

和：他の職種の方が気づけない変化や能力を見つけて生活につなげていけるのが作業療法の魅力の一つだと思います。人と関わることはとても面白いです。進路を決めるとき医療系は敷居が高いように思うかもしれませんが、人が好きであれば美容系やサービス業だけでなく国家資格が取れる作業療法士も検討した方がいいと思います。

加：子どもたちのかわいい笑顔を引き出すことができるのが一番のやりがいです。作業療法士は夜勤もなく女性も働きやすい仕事です。作業療法がよくわからない人はぜひ実際に学校を見学したり作業療法士の話を聞いたりしてみてください。